



IUFRO-J NEWS

No. 11 (1980. 5) —

あなたも参加できますユフロ世界大会

1981年9月の第17回ユフロ世界大会まであと15か月となりました。準備作業もいよいよ本格化し、前号でご紹介した各委員会、部会はそれぞれの分担に当たって積極的な活動をすすめています。いろいろな機会にでる話題を聞きますと、直接準備に関係していない方々には必ずしもまだ十分に理解されていないことが多いように感じられます。

IUFRO に加盟されている機関の方々には、遅くとも6月初旬までに IUFRO NEWS No. 27 が届くはずで、それに第1回アナウンスメントが掲載されていますので、詳しくはそれを見ていただきたいと思います。ここで多少解説的に要点を述べてみたいと思います。

まず参加予定のご連絡を

近くお手元に行く IUFRO NEWS No. 27 にアンケート用紙がはいっています。参加を予定されている方は、この用紙または本号末尾に刷りこんである様式のコピーに所要事項をご記入の上、成可く早く事務局にお送り下さい。組織委員会は、このアンケートによって参加者数の規模や、どの部会、エクスカージョンに参加を希望されているかの情報を把握したいのです。

正式登録の時期は

本年末までに次のサーキュラーをお送りします。それに同封する登録用紙で正式に登録していただきます。明年5月1日までに登録されれば参加費は30,000円です。それ以後も、また大会の時にも登録はできますが、参加費は35,000円になります。

大会の主な行事は

開会式(9月7日)にひきつづき各種の研究集會が行なわれますが、8日～11日の4日間は毎朝1時間特別講演が行なわれます。まだ全演者はきまっていませんが、日本からは渡辺 武氏(日米吹奏委員会日本委員長、アジア開発銀行初代総裁)がきまっています。期間中、7日夜、9日午後、12日開会式の直後に参加者全員の

社交行事が予定されています。

研究集會はどのように行なわれるか

現在、部会ごとにすすめられているプログラム編成の状況はそれぞれ別掲のとおりですが、部会集會、専門集會、ポスターセッションに大別できます。部会集會は部会の運営に関する議題のほか、特別な話題についての講演などがあります。専門集會は今年9月にきめられるテーマについて、指名される1～2名が話題を提供し、それらを中心にシンポジウム形式で行なわれます。参加者は、上記のテーマに関連した研究論文を持参することができますが、普通の研究発表とは異なり、必ず口頭発表ができるとは限りません。極端な場合は持参した論文を配布するだけになることもあります。

そこで、自主的な研究発表は成可くポスターセッションを利用されるようおすすめします。ポスターセッションへの参加のしかたについては、できるだけ早い機会に詳しくご紹介する予定です。

エクスカージョンにも奮って参加を

前号でご紹介したような14コースを予定し、それぞれのコース関係者が具体的な内容を鋭意検討しています。京都における集會でも勿論いろいろな形での交換が期待できますが、エクスカージョンで、寝食を共にし、現地を見ながら討論することは、学術上のメリットだけでなく、人間的交流の絶好の機会になると思いますので、奮って関連コースにご参加下さい。正式参加は大会の登録と同時に受け付けますが、現地で参加できないからという意見もあり、このような部分的参加の可能性についても検討しています。

以上ごくつかいづまんでご説明しましたが、ご質問、ご意見がありましたら、どうぞご遠慮なく組織委員会事務局にお申し下下さい。

第17回世界大会ニュース

JAPAN・1981

部会別プログラム編成状況

部会集会、専門集会のプログラム編成作業は、昨年9月のユフロ理事会できめられた基本方針にそって、目下部会ごとにすすまられています。最終的には今年9月に予定されているユフロ理事会直前の大会プログラム委員会で討議され、ひきつづいて理事会で決定されます。各部会とも、日本で開催することを考えて、できるだけ日本の研究者が得手としているテーマを取上げ、招待論文もできるだけ日本から選びたい意向を示しています。各部会の準備状況をご紹介しますので、具体的なご意見を各部会の日本の窓口となっているローカル・コ

ディネーターまたは関連のユフロ部会長（コーディネーター）、分科会長（サブジェクトリーダー）、特別分科会長（プロジェクトリーダー）にご連絡下さい。ローカル・コーディネーターは次の方々です。

- 第1部会 蜂屋欣二(林試)
- 第2部会 大庭喜八郎(林試), 小林富士雄(林試)
- 第3部会 山脇三平(林試)
- 第4部会 半田良一(京大)
- 第5部会 須藤彰司(林試)
- 第6部会 土井恭次(林試)

第1部会 森林環境と造林

この部会は9分科会と4特別分科会からなる大きなグループであるが、現在のところ、部会長の Dr. MLINŠEK (ユーゴスラヴィア) は8大会分科会を提案しており、それぞれの座長と予定招待論文数を下のように示している。

(6)については招待論文数が明示されていないが、全体で50~60を考えている。

最初の部会全体会議では日本の造林専門家の基調講演を予定しており、適当な候補者を推せんするようもとめられている。

各大会分科会のテーマの選択にあたっては次の点を考慮するように各座長にもとめている。すなわち、大会のシンボルテーマ、太平洋地域で開催すること、熱帯・亜

熱帯林業に関連した問題に力点をおくことなどで、15の候補テーマたとえば“立地造林研究と基礎研究の対比”“立地と造林に関するこんごの研究計画”、“森林の安定性に関する研究”、“物質循環と造林法”、“造林とエネルギー問題”などをあげている。

また第1, 2, 3, 4部会の合同集会を提案しており、“林業自体にたいする林業のインパクト”というテーマをあげ、“森林生態系にたいする造林のインパクト”、“森林生態系にたいするテクノロジーのインパクト”、“森林生態系にたいする林業薬剤のインパクト”などのトピックスについて招待論文を提案している。

各分科会の意見がすでに部会長のところに集まっていることと思われるので、具体的なご意見があれば至急お申し出下さい。(蜂屋欣二)

大会分科会	座長	招待論文数 (予定)
(1) 森林生態系 (生物生産力を含む)	H. MAYER	8
(2) 立地 (土地分類を含む)	S.P. GESSEL	8
(3) 環境影響 (森林火災を含む)	A. HAUMGARTNER	5
(4) 荒廃溪流、積雪となだれ	G. KRONFELLNER-KRAUS	5
(5) 林分造成、林分改良 (オーク林の改良を含む)	H. OSWALD	8
(6) 熱帯造林	A. PIETERS	?
(7) 野生鳥獣管理	R.C. STEELE	5
(8) 樹木栽培、都市林	J.W. ANDRESEN	5

第2部会 森林植物と森林保護

この部会は次のように、10の分科会と3つの特別分科会から成り、その下に合計70の専門研究会を擁する、ユフロ最大の部会です。

分科会または特別分科会	専門研究会
S 2.01 生理	7
S 2.02 種, 産地, 遺伝子源	13
S 2.03 育種	10
S 2.04 遺伝	4
S 2.05 病虫害抵抗性	5
S 2.06 樹病	13
S 2.07 昆虫	6
S 2.08 獣害	0
S 2.09 大気汚染	10
S 2.11 農薬	0
P 2.01 立地と有害生物	0
P 2.02 早成樹種造林の生産力	2
P 2.03 有害生物のインパクト	0

日本大会で第2部会に割りあてられている部屋は、2回の全体集会のための大会議室と、研究集会のための7～8の会議室です。会議室のつかい方について部会長 R.E. CALLAHAM 氏から示された案は次の通りです。

S 2.01	1部屋	} M. HAGMAN 氏が対応
S 2.02+03+04	2部屋	
S 2.05+06+07	3部屋	} E. DONAUBAUER 氏が対応
S 2.09	1部屋	
P 2.01+02+03	1部屋	} R.E. CALLAHAM 氏が対応
部会間の集会など	1部屋	

現在この案をもとに、それぞれの分科会、特別分科会の責任者たちは専門研究会の役員と連絡をとって必要時間と論文招待者の最終案を練っているか、または決定している頃です。ユフロは従来どちらかというところ三つパ主導型で運営されてきましたが、今回はアジア・オセアニアで開かれる初めての大会ですから、日本は勿論、アジア、オセアニア諸国の人々を論文招待者に入れるよう上記の責任者たちに働きかけることを皆さんに提案したいと思います。(小林富士雄)

第3部会 森林作業

部会長 Marten Bol (オランダ農科大学教授) より提

開催日	開催室 No.	A B C D			
		1981. 9. 7 (月) 午後	1 a	3 a	3 b
9. 8 (火) 午前	1 b	2	4 a	4 b	
9. 8 (火) 午後		部	会	会	合
9. 9 (水) 午前	1 a	3 a	3 b	4 b	
9. 10 (木) 午前		部	会	会	合
9. 10 (木) 午後	1 a	3 a	3 b	—	
9. 11 (金) 午前	1 b	2	4 a	—	
9. 11 (金) 午後	1 b	2	4 a	—	

案されている大会分科会開催スケジュールは前表のとおりである。

ただし、午前：10.00～12.30、午後：14.30～17.00

なお、1 a～4 b等符号で示した大会分科会の主題、ユフロ分類 No.、座長名は下表のとおり。

以上の提案について、各グループの座長は、関係者と相談のうえ6月1日までに、具体的な意見(主題・集人数・発表者数等)を、Marten Bol 氏 (Agri. Univ., Dept. of Forest Technique & Forest Products, P.O. Box 342, 6700 AH Wageningen, the Netherlands) に、至急提出するよう求められている。さらに、来年3月2～6日、アメリカ・北カロライナ大学で開催される造林の機械化システムに関するシンポジウム(ユフロ・ASAE)への論文提出も公募されている。(山脇三平)

大会分科会	主 題	ユフロ分類 No.	座 長
1 a	木材収穫と運材	S 3.01.00	T.C. BJERKELUND
1 b	山岳地における林業作業	S 3.01.02	H. LÖFFLER
2	造林撫育作業の機械化	S 3.02.00	S.E. APPELROTH
3 a	作業計画, 作業管理, 作業研究	S 3.04.00	H.H. HÖFLE
3 b	エルゴノミクス	P 3.03.00	T. VIK
4 a	木材収穫と木材利用	P 3.01.00	P. HAKKILA
4 b	熱帯地方における林業作業	S 3.05.00	R. HAARLA

第4部会 計画、経済、生長と収穫量、経営と政策

日本大会での本部会の運営に関して、部会長 (PLOCH-MANN 氏) の構想が関係者に示されているので、その要点を紹介する。

(1) 部会としての合同集会は、9月9日 (10:00~12:00~12:30) と同11日 (10:00~11:00) とし、テーマを「地域共有林および小私有林に関連した諸問題の識別と評価の方法 (Methods of Identifying and Assessing Problems Associated with Community Woodlands and Small Private Forests)」とする。この集会の司会者に RIHINEN 氏を、話題提供者に ARNOLD 及び GUILLARD 両氏を予定。3氏の問題提起を受けて各分科会のリーダーまたは代表者がそれぞれの立場から論点を開陳し、最後に総括と討論を行なう。ビジネス・ミーティングは9月11日 (11:00~12:30) をあてる。

(2) 大会分科会の構成と各分科会の正味の会期について次表のように提案したい。なお本部会で常時6部屋使用できるものとして計画している。

(3) 次の方々に各大会分科会の座長をお願いする。I...FRIES 氏(スウェーデン)、II...SCHMIDT-HAAS 氏(ス

大会分科会	分科会または特別分科会	Room days
I	S 4.01*	2
II	S 4.02*	2
	P 4.01*	1
III	S 4.05*	2.5
	S 4.06*	1.5
IV	S 4.04*	2
	P 4.02*	0.5
	P 4.07	2
V	P 4.03	2

* 専門研究会の会合を含む

イス)、III...GREGENSEN 氏(アメリカ)、IV...KRAMER 氏(西ドイツ)および V...GUNDERMANN 氏(西ドイツ)。各座長は関係者と協議のうえ分科会、専門研究会の準備を進め決定事項については部会長に報告する。ポスターセッションの準備も大会分科会の単位で行なう。

(4) 上記の提案に対する意見のほか、Group meeting のテーマと参加予定者数を本年6月1日までに部会長まで知らせてもらえると幸である。(熊崎 実)

第5部会 林産物

4月8日から16日迄オックスフォードで部会の集会がもたれた。この会議の中で日本大会に対する考え方のいくつかが勧告されている。しかし、大会直後のことであり、細かいスケジュールは未定である。オックスフォードでの勧告を一つの基礎とし、さらに、前回のオスロ大会での勧告も勘案して、部会長が、各グループのリーダーと調整した上で、細かいプログラムが決めることになる予定である。したがって、第5部会に関しては未だ日本側からプログラムを含めて運営については、どのように受け入れられるかは別としても、意見を出すことは出来ると考えられる。ただし、これも6月なかば位には部会長 Dr. HILLIS に届く必要がある。

第5部会のプログラムは未定であると述べたが、詳細は未定であるが、すでに開催を決めている特別分科会があるが、これは前大会ですでに決定されている「竹および近縁種の生産と利用」(グループリーダー:京大木研、樋口隆昌氏)である。

今回のオックスフォードの集会の終りに、材質のグループが「明日の森林から得られる木材」を一つのテーマにしようとしていること、また「熱帯材の性質と利用」について重点をおこうなどと勧告している点から考えて、これらのテーマに関連する会議に重点がおかれることも予想される。

建設的なご意見、ご提案があれば、6月初旬までに頂ければ幸いです。(須藤彰司)

第6部会 全般的事項 (General Subjects)

部会長: Jean PARDÉ (仏国立森林中央研究所)

副部会長: Lars STRAND (ノルウェー森林研究所)

本年1月11日付、部会長より各分科会長宛に試案を示し意見を求めている。その案を要約するとつぎのとおりである。

この部会に与えられた室数は5であるので、2室は2つのグループの共用となっている。

各グループの招待論文の件数はつぎのとおりとしている。

Dr. PARDÉ はまた、4月17日付、日本のローカルコーディネーター宛の書簡で、各大会分科会に、日本から

ルーム No.	大会分科会	9/7	8		9		10		11		
		(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	PM	AM	PM	AM	PM
1.	(S6.01) 森林修景・リクリエーション, 旅行管理 H. HEYEZE (オランダ)		○	○	P		○	○	○		部 会 全 体 会 議
2.	(S6.02) 統計, 数学, コンピューター W.G. WARREN (カナダ) (S6.05) リモートセンシング R.C. HELLER (米)		○	P			○				
3.	(S6.03) 情報システム, 用語法 S. SCHRADER (西独)		○	○	○		P	○	○		
4.	(S6.07) 歴史 H. RUBNER (西独)		○	○	○		○				
5.	(S6.06) 林業研究管理 D.L. BOSMAN(南アフリカ), J.H. OHMAN(米) (S6.08) 研究の活用 G. MÖLLER (米)		○		○			○	P		
											1430 1600
											P (0.7) 1600 1700 (+06)

○:セッション P:ポスターセッション

分科会	招待論文数 (予定)	招待論文を1件ずつ出 してほしい, 例えば, S6.07 歴史のグルー プでは, 1860年以後 の日本林業史の論文を 出す人がいないか照会 してほしい, と述べて いるので, 目下関係の 会員と協議している。
S6.01	6	
S6.02	5	
S6.03	6	
S6.05	6	
S6.06	6	
S6.07	6	
S6.08	5	

なお, S6.05 リモートセンシングについては, 分科会長の Dr. R.C. HELLER (アイダホ大学) が, 本年6月末, 来日するので, その際中島巖氏(林賦)と連絡をとることになっている。

この部会に関係のある方は, どうぞ, どしどしご連絡下さい。(土井恭次)

★総務・研究部会等の班編成

3月17日の拡大事務局会議で準備作業のすすめ方を討議した結果, 項目別に対応する班を編成する必要が認められたため, 事務局で原案を作成し, 4月24日の組織委員会で承認をうけた。今回つくられた班とその構成は次のとおりである。

事務局財務班

(長)中野秀章(総務部会長), 有光一登, 中井 孝,
(以上総務部会員), 景山哲誠, 吉田英夫, 宮本
栄一(以上事務局員)

総務部会

<プログラム班>

(長)小林富士雄, 中村三省, 小沼順一, 南雲秀次郎
(研究部会兼任)

<登録・設営班>

(長)須藤彰司, 熊崎 実, 山根明臣

<社交・接遇班>

(長)雨宮昭二, 雨倉朝三, 志水一允, 山田房男
(運営委員, 京都地区連絡会代表)

研究部会

<プロシーディング班>

(長)青島清雄, 南雲秀次郎, 佐々木恵彦

<ポスター・セッション班>

(長)山口伊佐夫, 片桐一正, 若林隆三

★エクスカーションのコース別担当者きまる

エクスカーション各コースの検討は, これまで部会とコース・コーディネーターが中心になってすすめてきましたが, 大会時直接コースを運営していただくコース・リーダーと, リーダーを補佐していただく研究担当(scientific leader), コース・リーダー補佐(technical leader)がほぼ決まりましたので, それぞれの役柄とお名前を一覧表にします。こんども若干の変更や追加があると思いますが, それらは逐次ご報告します。

コース No.	コース・リーダー Course Leader	研究担当 Scientific Leader	コース・リーダー 補佐 Technical Leader	コーディネーター Coordinator	副コーディネーター Sub-Coordinator
1	千葉 宗男(岩手大)	山谷 孝一(林試北東) 船越 昭治(岩手大) 北村 昌美(山形大)	未定	蜂屋 欣二(林試)	佐藤 亨(林試) 藤森 隆郎(")
2	川名 明(農工大)	野上寛五郎(宮崎大)	木下 重久(林業家)	川名 明(農工大)	野上寛五郎(宮崎大) 他数名
3	塚本 良則(農工大)	駒村富士弥(三重大) 佐々 恭二(京大)	村上 公久(林試)	石川 政幸(林試)	村上 公久(林試)
4	武藤 憲由(北大)	吉本 衛(林試北海道) 千広 俊幸(道林産) 畑野 健一(東大)	柴草 良悦(北大)	原田 洸(林試)	佐々 朋幸(林試)
5	宮島 寛(九大)	大庭喜八郎(林試) 久田 喜二(林試九州) 須崎 民雄(九大) 宮崎 安貞(") 黒木 嘉久(宮大) 寺下隆喜代(鹿大)	内村 悦三(林試)	大庭喜八郎(林試)	勝田 征(林試) 内村 悦三(") 長坂 海俊(")
6	横田 俊一(林試九州)	佐保 春芳(林試西関) 真宮 靖治(林試) 野淵 輝(")	田中 謙(林試西関) 鈴木 和夫(四国)	小林 享夫(林試)	林 康夫(林試) 阿部 恭久(")
7	山田 房男(林試西関)	小林 一三(林試西関) 阿部 学(林試) 田村 弘忠(") 小久保 醇(東大) 金光 桂三(東大) 古田 公人(林試北海道)	池田 俊弥(林試)	片桐 一正(林試)	山田 房男(林試西関) 小林 一三(") 池田 俊弥(")
8	守口 博文(林業機械協会)	佐々木 功(京大) 山脇 三平(林試)	郡 完治(林野)	福田 光正(林試)	柴田 順一(林試) 鈴木 皓史(")
9	嶺 一三(東大名誉)	中村 省三(林試) 中島 巖(") 鈴木 太七(名大)	大貫 仁人(林試)	中島 巖(林試)	中村 三省(林試) 大貫 仁人(")
10	林 大九郎(東大農)	緒方 健(林試) 鷺見 博史(") 今村 祐嗣(奈良林試)	緒方 健(林試) 鷺見 博史(") 今川 靖(名大)	尚本 卓造(林試)	緒方 健(林試) 鷺見 博史(")
11	杉山 英男(東大)	佐々木 光(京大) 山井良三郎(林試) 金谷 紀行(") 中井 孝(")	松山 持壮(奈良林試) 金谷 紀行(林試) 中井 孝(")	山井良三郎(林試)	金谷 紀行(林試) 中井 孝(")
12	塩谷 勉(東大農)	中村 一(京大) 塩田 敏志(東大)	加藤 蓬(林試) 高橋 文敏(") 村島 助治(") 村島 由直(信大)	野村 勇(林試)	柳 次郎(林試) 高橋 文敏(")

コース No.	コース・リーダー Course Leader	研究担当 Scientific Leader	コース・リーダー 補佐 Technical Leader	コーディネーター Coordinator	副コーディネーター Sub-Coordinator
13	宮崎 信(林 試)	香山 暉(北大) 田島 俊雄(岐大)	岩下 睦(林 試)	岩下 睦(林 試)	島田 謹爾(林 試) 平林 靖彦(")
14	倉沢 博(前静大)	大角 泰夫(林 試) 林 良次(林野庁)	小谷 霧子(林 試)	玉井 展也(林 試)	大角 泰夫(林 試) 高橋 教夫(")

委員会動き

★組織、募金、運営3委員会合同会議

4月24日(木) 午後14:00~16:15

香町共済会館会議室

出席者

<組織委員会> 松井委員長、平田(代)、川名、佐々木
樋口、土井、北村、薄井(代)、陣内、片岡、継田
浅田、岡田、鈴木、馬田(代)、千葉茂、諸戸、原
田、薫木(代)、坂本、今井、宮越(代)、山内、若
江、神足、大矢、中野、紙野の各委員

<募金委員会> 塩谷委員長、筒井、林、大平、(佐々
木)、(大矢)、(神足)、(若江)の各委員

<運営委員会> (土井委員長)、(中野)、(紙野)、杉原
山田、脇元、岩下、浅川の各委員

<林野庁> 今村研究普及課長、浅井、浅田、奈須田

<事務局> 景山

() 内は再出の方 以上42名(敬称略)

松井委員長、今村研究普及課長の挨拶にひきつづいて、土井事務局長から林野庁研究普及課の関係係官の紹介があり、そのあと議事が行なわれた。

1. 経過報告

組織委員会幹事会(54.7.10)、募金委員会(第1回:
54.11.14、第2回:55.1.25)、運営委員会(54.6.13)

および各部会関係の動きについて報告

2. 委員等の交代、新任

<組織委員会関係>

委 嘱 阪本 功(関東林木育種場長)
山内正敏(福岡県林業試験場長)
原田 洸(日本林学会総務理事)

委嘱解除 茨木親義、坂本砂太、舟山良雄

<運営委員会関係>

委 嘱 高木勇樹(林野庁林政課総括課長補佐)
脇元裕嗣(林野庁研究普及課総括課長補佐)
山田房男(林試関西支場長)
船渡清人(林野庁業務課総括課長補佐)

総務部会副部会長 雨宮昭二

(林試木材利用部構造利用科長)

委嘱解除 鈴木久司、林 寛、細井 守、今村清光
(敬称略)

3. 組織と班編成

組織図と構成メンバーのリストを配布。準備の進捗に
対応するために編成した班の内容が紹介され、了承がえ
られた。(5~7ページ参照)

4. 業務委託

前項の班編成に対応した実務を、サイマルインターナ
ショナル、京都国際会館、日本交通公社に部分的に委託
していきたい旨の提案があり了承された。

5. 大会準備日程

項目別、月別の大会準備スケジュールについて説明が
行なわれた。

9. 募金中間報告と方針の一部変更についての討議
募金の進行状況の中間報告のあと、指定寄付金の指定
申請に関連して自己資金比率を増やすことの必要性が説
明された承された。

7. エクスカーション関連報告

エクスカーションのコース編成状況と各コースの担当
者などが紹介された。

★部会関係

55. 1. 16 研究部会(東大)

1. 26 拡大事務局会議準備会議(林試)

2. 4 同上(第1回)(グリーン倶楽部)
研究部会(東大)

2. 18 部会合同会議(林試)

2. 23 Exc. 部会(林試)

2. 26 拡大事務局会議(第2回)
(グリーン倶楽部)

3. 3 リーゼ会長・部会長会議(同上)

3. 10 研究部会(東大)

3. 17 拡大事務局会議(第3回)
(グリーン倶楽部)

3. 29 部会合同会議(林試)

3. 31 Exc. 部会(林試)

4. 12 部会合同会議(林試)

4. 22 拡大事務局会議(第4回)
(グリーン倶楽部)

4. 30 部会合同会議(林試)

第 5 部 会 合 同 集 会 報 告

(1) 概 要

去る4月8日から16日までイギリス・オックスフォードにおいて第5部会合同集會がもたれた。参加国28か国、参加者219名、同伴29名で、日本からは6名(林試:岩下,須藤,中井,北大:石田,深沢,里中)が参加した。そのうち約半数がヨーロッパからの参加者で、近いところからの参加者が多いということは、日本大会の場合に、距離が遠いことが相当のネックになるものと予想される。

第5部会の構成はディビジョナル・コーディネーター(以下部会長)のDr. HILLISのもと、4つのサブジェクト・グループ(以下分科会)と3つのプロジェクト・グループ(以下特別分科会)からなっている。すなわち、S5.01木材の材質、S5.02木材工学、S5.03木材保存、S5.04木材加工、P5.1熱帯材の性質と利用、P5.03森林バイオマスからのエネルギー、P5.04竹などの生産と利用、などが含まれる。そしてそれぞれの分科会は、3~4のワーキングパーティー(以下専門研究会)からなっており、総数で20以上の専門研究会からなっている。しかし分科会によっては、その中に含まれる専門研究会が内容的に比較的近い関係にある場合とそうでない場合がある。例えば、S5.02木材工学は、規格、グレーディング、構造強度など関係者の関心が比較的共通しており、多くの参加者の論議の対象になりうるグループであり、また中井氏も書いておられるが会期中全期間を通してセッションが持たれていた。又S5.01木材の材質も、グループの性格上、種々の内容のテーマが取り込み得るため、関係の集會がほとんど毎日持たれていた。これに対しS5.04木材加工の場合、製材と接着剤・ボードでは全く関係がなく、別の会場で討議が進められた。製材関係はそれでも5半日を費して論議をつくしていたのに対し、接着剤ボード関係は件数が少ないため、2半日を使ったのに過ぎない。S5.03エネルギーが2半日、P5.01熱帯材とS5.03木材保存がそれぞれ1半日であった。

會議の運営方針は、部会長と各分科会のリーダーの間で決められ、会期中のスケジュールの実行、および集會の進行については、それぞれのグループのリーダーならびにS5.01、S5.02のようにセッションの数の多いグループではそれぞれの担当チェアマンを含めてビジネス・ミーティングを開いて協議された。登録その他の事務処理はTrans World Conference Organisersと称する「度日本であれば、サイマルとJTBと京都国際会館

をまぜこぜにしたような性格の業者が3~4人で一切を取り仕切っていた。

會議は、初日の開會式においてリーゼ会長のあいさつで始められ、すでにでき上っていた日本大会のFirst AnnouncementがのっているIUFRO News No. 27を示しながら、日本大会の準備状況がきわめて立派に進められている旨の紹介があった。基調演説としては部会長Dr. HILLISによる「木材資源の有効利用」がなされ、以後、別表のように朝から晩おそくまでのきついスケジュールの日程で會議がもたれた。毎日朝の1時間はその日の集會に関連のある特別講演が行なわれ、研究集會によってはposition paper(招待論文)発表が用意された。また夜の時間を利用してIUFROと直接関係はないがInternational Academy of Wood Scienceの特別講演会や、International Association of Wood Anatomyの集會が持たれていた。

この會議が日本大会の参考に全くならない点は、1部会の集會に丸1週間をかけていることである。それに対し日本大会は6部会で1週間弱の日数であり、分科会の数にしても大変な数にのぼり、各研究集會においては、招待論文以外に個々の論文の発表の余地はほとんどないと考えられる。今回の大会では各セッションごとに1半日5~6件の研究発表が行なわれた。筆者の場合も時間はその場で短縮させられたが、S5.04、05、07 Panel productsとAdhesiveのjoint meetingで発表が可能であった。したがって日本大会の場合には一般のvoluntary paper(討議論文)はポスターセッションにおいて発表することになる。今回の會議にもポスターセッションが組込まれており、日本大会の参考にするため、筆者は、これにも参加してみたが内容については別項で触れることにする。

社交行事として、登録の日の晩のインフォーマルレセプションと4日目の晩のプレミアム官殿見学をかねたレセプションは無料で、最後の晩のバンケット(Banquet)は有料であった。婦人コースも3コース(そのうち2コースは日曜日の一般の観光コースと同一)用意されていた。會議後の見学旅行はそれぞれ見学場所4ポイントを持ち、2コースが用意されていたが、参加者はそれぞれ10名余りで、會議参加総数に比べると少なかった。

最終日の閉會式では、各研究部会集會で討議された総括が部会ごとに報告され、最後に全体が総括された。ちなみに筆者の参加したS5.04-05、07では、日本大会での集會は旅費の関係で大方の参加が得られるかどうかわ

1980.4 第5部会合同集會會議スケジュール

	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月14日	4月15日	4月16日	
8.00							研究部会集會		
9.00		開會式 基調演説	特別講演	特別講演	特別講演	特別講演		各研究部 会総括	
10.00		特別講演	研究集會	研究部会	研究 集會	一般 集會	研究 集會	一般 集會	
10.30							同上	閉會式 総括	
12.30									
14.00	登 録	研究集會	研究集會	研究集會	BM	研究 集會	一般 集會	研究所 工場 訪問 (4コース)	同上 (5コース)
17.00		ポスター セッション	ポスター セッション			ポスター セッション			
18.30									
20.00	インフ ォー マル ・ レセ プシ ョン	BM	BM	IAWS 特別 講演 會	レセプシ ョン	IAWA 集會		同上	晩さん會
22.00									

(注) BM: ビジネス・ミーティング: 4月13日(日曜) 2コースの観光旅行, 4月17~18日
2コースの見学旅行

からないため、未決定のままになった。(岩下 隆)

(2) S5.01 材質の研究集會に参加して

“二次的な変化に基づく木材組織の変動”をテーマにした集會の議長を引受けることになっていたのであるが、誰かがやっているのを見ればどんなことをすればよいかわかるだろうと思いつながら出席した処、このグループの集會がトップであることに気付いた時は既に遅く、いささか慌ててしまった。なお悪いことに、プロジェクトを2つ用意してあるのに、一つはコードが短くて利用できないため、机を動かしたりしてやっとどうにか使えるようにしたけれども、開會したのはすでに定刻の15分過ぎであった。この間ポジションペーパーの発表者、議長、主催者側の一人、出席者などが天手古舞いをした。発表は英語で行われた。英語が下手だからと言いつけをするヨーロッパの人も結構いたのにいささかほっとした。中にはスペイン語の原稿をもって来て、それを英語で読んで欲しいと頼む人がおり、また、それを引受けて、原稿を指で追いつながら、スラスラと英語にして読んでいく人がいたのは、いささか驚きであった。発表者の中で、欠席者がいると、議長が代読したり、もしも発表者の発表内容をもともと良く知っていたりすると、さらに詳しく説明したりするのが例のようである。私も一人の欠席者の発表を読まなければならないことになり、原稿に目を通した処、意味がわからない部分が多い上に、結論をどうしようとしているのか判らないのに驚かされ

た。はじめは、自分の英語力がひどいのかと悲観したものである。コーヒーブレイクの後の発表であったので、ブレイクの間にリーダーである英国人に見せた処「私もこれは何を言おうとしているのか判らない」と言われ一安心した。このようなことは国際集會では、必ずあると思つていてよいだろう。

議長の仕事の大きなものの一つに、集會終了後、どのようなことが発表され、どのようなことが議論され、出席者の興味がどのようなことにあるか、このようなことから次の集會では、どのようなテーマを取り上げるか勧告を出すことである。この作業は、それぞれの集會のリーダーと一緒にやるのであるが、リーダーおよび議長の役割が集會の運営上非常に大きいことを示している好例であろう。それぞれのグループごとの勧告を、さらに大きいグループごとに集約して、出席者の賛成を得た上で、最終日の閉會式の際に全員に報告することになる。当然このことが、次回の集會(今回の場合は、来年の京都大会時)の運営に反映されることになる。

ヨーロッパで行われているせいか、話される言葉は英語だけではなく、小さな集まりになると、「フランス語でいいだろう」などと言つて突然英語を止めてしまうようなことがあったのに驚かされた。コーヒーブレイク、食事、パーでの時間は集會の最中より余程よい議論ができる。このような時には、ヨーロッパ人は英語より得意な言葉を喋りたがる。日本語を話す外人がないもの

か。さすがの無類無駄なことであった。

ビジネス・ミーティングでは、それぞれのグループの運営方針について論議されるので、今までの経過を知らないと産り心地が悪い。しかし、これに出ていると、会議の運営がどうなっているのか、この次はどうなるのか全くわからなくなる。そのために、ユフロは何をしようとしているのか見当がつかなくなる。少なくとも部会のレベルまでの運営は、まめに、いくつかの段階のビジネスミーティングに出席することによって、かなりわかってくると考えてよい。(須藤彰司)

(3) S5.02 Wood Engineering Group の集會に参加して

1976年のオスロ大会時にも思われたことだが、このグループは、IUFRO内の他のグループと異って、リーダーが思うままに、プログラムでも、何でも変更してきている実績がある。オックスフォードで、最初のウェルカムパーティの際、開会式の午後からセッションをもち、以後会期いっぱい、びっしりと発表、討論があること、会場はあらかじめ用意された所ではなく、登録が行われた室で、会期中ずっと変わらないことを聞かされた時にも、さほど驚かなかった。

初日の Wood Processing との合同セッション「製材寸法の規格化」も、したがって一方的にキャンセルした形になったし、毎朝の全体会議における特別講演が開かれている間にもセッションが開かれて、第5部会の中では、同時平行的に別の会議が行われた感がある。しかし、このことは、各国の木材工学関係者がIUFROを否定しているのでは決してなく、はるばる集ってきた貴重な時間を、最高に有効に使って、意義あるものにしたという考えがリーダーばかりでなく、その他のメンバーに強いためと、実際の発表件数も、詳しく数えたわけではないが、他のグループに比較すれば多かったためと思われる。

この決定については、Dr. Hillis や他の人々とリーダーの間で激しいやりとりがあったと聞いているが、開会式の感じでは、認知された感があった。これは、広い会場いっぱい机をコの字型に配置し、一方的な発表を聞くというよりは、相互の討論を中心に進めていく方式が採られ、ちょっとのぞいた人には、その熱心さが強い印象を与えたためと思われる。私個人としては、特別講演のなかには、ぜひ聞きたいものもいくつかあったが、会場が離れていることもあり、ずっと、セッションに出席した。もっとも、研究機関見学の午後一回だけ、予約してあった TRADA の見学とダブって、最終セッションは割愛せざるを得なかった。会議の内容そのもの

については、他の機会へゆずるとして、会期中使用されたオーバーヘッドプロジェクター (OHP)、スライドプロジェクターの調子が悪く、前者は大会事務局に別のOHPと取りかえさせる程。ピンボケであり、後者は、リモートスイッチを押す度に、スライドが飛び上って白い画面となり、一コマ元ごとに戻して、又進めるといふ手順が増えて、貴重な時間を無駄にした。

閉会式の前のビジネスミーティングで、日本大会でも、会期中同一の室で、討論が続けられ、静かな会場を準備段階で、獲得するように申し入れを受けてきているので、関係者の御高配を今からお願いしておきたい。

1981年の日本大会では、このグループに属するヨーロッパの多くの人々は日本へ行けないだろうとのことで、京都では、やや小規模の会議にすることを決めた。ちなみに、今回の参加者は、大体40名位で約20か国。その2/3はヨーロッパ勢であった。さらに、1982年の春、スウェーデンかメキシコで大きな会合を持つことも決められたが、どちらになるかは未定である。これは、オックスフォード集會から16か月後の日本大会では、発表論文の用意が難しいことが最大の難点とされたためと、スウェーデン、メキシコは、大変熱心に、それぞれの国で会議を開催するよう招待してきているからである。

(中井 孝)

(4) ポスターセッションに参加して

今回の会議には最初から、部会長の発意でポスターセッションがプログラムに予定されていたので、日本大会の参考のため、研究集会で口頭で発表するものと同じ内容のものをポスターに用意して参加した。しかし会場が会議場から離れた別の建物のコーヒープレークが行なわれる処であったことと、別表スケジュールに示されているように、他の会議が終了夕方5時からであったこと、時間が決められているだけで、どんな内容のものが、いつ発表があるともプログラムに明示されていなかったため、お客の集まりが悪く、全く不盛会であった。発表件数も全体でわずか10件足らずでしかなかった。

今回の経験に基づくと、ポスターセッションの会場は研究集会の会場に近くなければならないこと、予め発表者、課題名、日時等が明示されてなければならないこと、発表は研究グループごとにまとめて行なわなければならないこと、またその時間帯では同系統の研究集会は行なわないことなどが、必要な条件として考えられる。

日本大会の場合は、日本側の発表者が多いことが予想されるが、極言すれば、唯一の発表の場とも考えられるので、各部会長との連絡を密にして、運営に疎漏のないことを望むものである。(岩下 睦)

スフロJレポート

昭和54年度 IUFRO-J 機関代表会議

55, 4, 24, 12:00~14:00, 番町共済会館において19名の機関代表が出席して、つぎのことがらが報告、協議決定された。

- IUFRO-J の昭和54年度中における主な業務。
 - 第1回幹事会を昨年7月26日開催し、17回大会のアナウンスメント、募金等について協議を行った。
 - IUFRO-J News の発行 (No. 6~No. 10)
 - IUFRO-J 研究者名簿の発行と、専門分野のコンピュータ整理を実施。
 - IUFRO の日本語版しおりの発行。
- 昭和54年度収支報告：(別掲の通り承認)
- 昭和54年度会計監査報告：岐阜大岡田監査より異状のない旨報告。
- 昭和55年度予算案：(別掲の通り承認)
- A会員(913名) B会員(12機関)の加盟状況について説明。
- 第17回日本大会の準備状況について議長ならびに幹事長より概要の説明があったが、この会議に引きつづいて組織委員会が予定されていたので、IUFRO-J として関連の深い、ポスターセッション、各大学の募金状況、募金方法等について情報の交換が行なわれた。
- 役員承認

会則第12条により現在の役員(議長、幹事長、幹

事機関、監査、主事)の再任が承認された。

8. その他

会費の未納、55年度会費の納入について事務局より要請があり、予定の議題協議を終了して、機関代表会議を終った。

昭和54年度収支決算報告

支出の部

科 目	金額(円)	備 考
情報活動費	—	
会議費	27,240	〔弁当(機関代表会議於農工大(23,000円) コーヒー(幹事会於日林協) 4,240円)
予備費	—	
事務費	5,950	〔切手・ハガキ 5,000+ 払込手数料 950円〕
日本大会積立金	1,500,000	円定期預金 (6か月5.25% 6月1日満期)
合 計	1,533,190	差引残額 784,142円 (普通預金)

昭和55年度予算案

収入の部

科 目	金額(円)	備 考
前年度繰越金	784,142	
会 費		
54年度分	66,000	66人×1,000円
55年度分(A会員)	900,000	900人×1,000円
(B会員)	100,000	20人×5,000円
雑 収 入	40,000	預金利息
合 計	1,890,142	

(支出の部は次ページ)

昭和54年度収支決算報告

収入の部

科 目	金額(円)	備 考
前年度繰越金	1,003,700	
会 費		
54年度会費	822,000	812人と学生19人 (九大)
53年度会費(A会員)	391,610	372人と諸戸林の 20,000円
(B会員)	75,000	11機関(15口× 5,000円)
55年度会費(前納)	9,000	9人分(宇大)
雑 収 入	16,022	利息
合 計	2,317,332	

昭和 55 年度予算案

支出の部

科 目	金額(円)	備 考
情報活動費	525,000	J-News 100円× 1,000部×4回= 400,000円 IUFRO-News 増刷100円×20部 ×4回80,000円 郵送料150円×10回 ×30ヶ=45,000 円
会 議 費	85,000	会場借料10,000円 ×2回 昼食代35,000円+ 15,000円+ 15,000円 (3回分)
予 備 費	80,142	払込手数料・ 通信費
日本大会積立金	1,200,000	
合 計	1,890,142	

(特別会計)

現在保有額 7,836,360円

(内 訳)

- (1) OSLO 経理分 1,658,033
(定期預金1か年間, 54年度利息133,743円)
- (2) 募金経理分 4,678,327
(IUFRO-J News 10号の通り)
- (3) 54年度繰入分 1,500,000 (定期預金)

IUFRO-J NEWS No. 11

昭和 55 年 5 月 25 日

編集: 国際林業研究機関連合-日本委員会事務局

発行: 農林水産省林業試験場

IUFRO NEWS No. 27 に挿入されているアンケート用紙または下記様式のコピーに必要事項をご記入の上, 〒 305 筑波農林研究団地内郵便局私書箱 16 号 林業試験場内 ユフロ事務局あてにお送り下さい。

第 17 回ユフロ世界大会アンケート

1981 (昭 56). 9. 6~17

於 京 都 国 際 会 館

御芳名 _____

勤務先 _____

連絡先 _____

関心のある部会: 分科会

(部会, 分科会の No. をご存じない方は, 専門分野または関心のある分野をご記入下さい。)

エクスカージョン・コース No. _____

(コースの詳細は本誌 10 号をご参照下さい。)

ご意見:

参加する

参加したいと思うが, 不確か

わからない

同伴者 有 無